

副産物情勢

12月12日 更新

JA全農ミートフーズ株式会社

項 目			内 容		備 考		
内 臓	1.国産牛	○ 10月の成牛と畜頭数は、96.4千頭(前年比96.9%)と前年を下回った。 内訳を見ると、和牛:48.7千頭(前年比100.1%)、交雑牛:22.6千頭(同101.4%)、乳牛去勢:8.8千頭(同80.9%)となった。 ○ 11月の成牛と畜頭数は、速報値(11月30日まで集計)で94.5千頭(前年比86.3%)と前年を下回る見込みとなった。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(11月26日公表)によると、11月の出荷頭数は、交雑種が前年同月並みと見込まれるが、和牛および乳用種の減少が見込まれることから、前年同月を下回ると予測する。 12月は、乳用種が減少するものの、和牛および交雑種の増加が見込まれることから、前年同月を上回ると予測する。(11月 101.3千頭(前年比92.1%)、12月 105.0千頭(同104.2%)) 3か月平均(10月～12月)では、出荷頭数100.7千頭(前年比97.1%)、生産量32.5千ト(同99.1%)と前年同期を下回る予測となっている。 ○ 需 給 動 向 : 赤物:テールの動きが堅調であり、全体的に引き合いが強い。 白物:荷動きが多少出てきているが、市中在庫があるため、流通価格は上がりきらない。			1.東京市場内臓価格 単位:円/枝肉kg 価格改定年月日 牛内臓 豚内臓 令和3年4月 26日 25 5 令和3年10月 18日 35 7 令和4年2月7日 25 5 令和4年4月4日 35 7 令和4年8月8日 45 9 令和6年12月2日 48 9		
	2.国産豚	○ 10月の全国豚と畜頭数は、1,478千頭と前年を上回った。(前年比101.5%) 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道103.6%、東北104.6%、関東100.7%、北陸甲信越104.0%、東海100.8%、近畿95.6%、中四国103.2%、九州・沖縄99.1% ○ 11月の全国と畜頭数は、1,310千頭(速報値11月30日まで集計、前年比92.9%)と前年を下回る見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年より2日少なく、1日当たりの平均と畜頭数は72,794頭(前年実績:70,494頭/日、前年差2,300頭/日)となった。 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;11月25日付け)によると、12月;1,475千頭(前年比101%)、2026年1月;1,342千頭(同96%)、2月;1,247千頭(同97%)、3月:1,406千頭(同104%)、4月:1,392千頭(同101%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約100%と前年並みの見込み。 ○ 需 給 動 向 : 赤物:と畜頭数が増加したことで供給量は増加したが、冷蔵商品は堅調な動きが続いている。 白物:需要期に入り、動きが出ているものの、地域によりばらつきがある。			※乳牛45円/kg ※豚正貫物 2.大阪市場内臓価格 単位:円/枝肉kg 価格改定年月日 牛内臓 豚内臓 令和3年4月19日 25 3 令和3年10月 15日 35 4 令和4年2月1日 25 4 令和4年3月28日 35 4 令和4年8月1日 45 5 令和6年12月2日 48 5		
	3.輸入牛	○ 10月の輸入通関実績は、全体で49.2千トと前年を上回った。(前年比111.9%、前月比128.3%)。 内訳ではチルド:16.6千トン(前年比105.5%、前月比126.7%)、フローズン:32.6千ト(前年比115.5%、前月比129.1%)となった。 輸入相手国別では、チルドは豪州、カナダが増加した。フローズンは豪州、米国、カナダが増加した。 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測によると、チルドは、11月は前年の輸入量が低水準であったこと等から前年同月を上回ると予測し、12月は現地価格の高止まり等によりほとんどの輸入先からの輸入量の減少が見込まれることから、下回ると予測する。フローズンは、先々の価格上昇が予想される中、米国産ショートプレートや豪州産のうち、主に加工用のひき材等を使用されるトリミングを中心に確保を急ぐ動きが見込まれること等から11月、12月は前年同月を上回ると予測する。3か月平均では、チルドは下回り、フローズンは上回ると見込んでいる。 令和7年11月 合計:40.5千ト(前年比117.1%)、チルド:13.7千ト(同100.5%)、フローズン:26.8千ト(同128.0%) 令和7年12月 合計:38.6千ト(前年比98.4%)、チルド:14.2千ト(同88.8%)、フローズン:24.4千ト(同105.1%) ○ 輸入牛内臓実績(令和7年10月):牛腸(冷凍) :1,199ト(前年比85.7%・前月比127.4%) 国別実績;米国769ト、メキシコ165ト、豪州144ト、カナダ113ト他 牛レバー(冷凍):69ト(前年比67.8%・前月比53.9%) 国別実績;豪州30ト、米国39ト			3.東京市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚 価格改定年月日 牛原皮(和牛) 豚原皮 令和元年7月22日 700 10 令和2年3月16日 500 10 令和2年6月15日 100 10 令和2年7月20日 100 2 令和2年9月28日 10 2 令和3年5月24日 10 10 令和5年10月16日 10 2		
原 皮	1.牛原皮	○ 輸 出 実 績 (令 和 7 年 10 月) : 30,706枚(前年比69.2%、前月比85.6%) 国別実績;タイ29,516枚(前年比73.6%)、韓国1,190枚(同61.2%) 輸出平均価格(令和7年10月):2,402円/枚(前年差▲26円、前月差▲41円) ○ 輸 入 実 績 (令 和 7 年 10 月) : 牛大判皮11,578枚(前年比49.7%、前月比62.3%)、ウェットブルー6,931枚※(同51.5%、同56.4%) ※4.4㎡/枚で計算 輸入平均価格(令和7年10月):牛大判皮6,156円/枚(前年差▲2,020円、前月差▲1,182円)、ウェットブルー11,096円/枚(同+2,637円、同+2,470円) ○ 海 外 情 勢 : 世界的に昨年より流通価格は下落している。また輸出枚数は前年を下回っている。 ○ 国 内 情 勢 : 荷動きに特段大きな変化はない。国内産の引き合いは乳牛去勢が主である。			4.大阪市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚 価格改定年月日 牛原皮(和ヌキ) 豚原皮 令和元年8月15日 1,000 10 令和2年3月16日 800 10 令和2年6月22日 300 10 令和2年7月27日 300 2 令和2年9月28日 10 2 令和3年6月1日 10 10 令和5年10月23日 10 2		
	2.豚原皮	○ 輸 出 実 績 (令 和 7 年 10 月) : 1,009,080枚(前年比98.0%、前月比102.3%) 国別実績;タイ843,780枚(前年比97.8%)、カンボジア116,500枚(同77.7%)、韓国41,800枚(同394.3%)、ベトナム7,000枚(同97.2%) 輸出平均価格(令和7年10月):301円/枚(前年差▲39円、前月差+9円) ○ 需 給 動 向 : 価格はドル換算では過去最低水準で推移しており、依然として原皮業者の収支は厳しいものとなっている。 現地タンナーとの交渉は苦戦が続き、好転する兆しは見えていない。					
レンダリング	1.油脂等	○ 国産食用加工油脂向け価格(12月渡し):牛脂175円/kg(前年差+30円、前月差±0円)、豚脂175円/kg(同+30円、同±0円) 需要期に入り、牛脂・豚脂とも需給はさらに引き締まっている。 今後の価格については飼料用油脂の動向が焦点となる。 ○ マレーシア産パーム油相場(11月):224円/kg(前年差+14円、前月差+32円) 10月生産量は204万トン(前月比111.0%)、輸出量は169万トン(同118.6%)、月末在庫は246万トン(同104.4%)となった。 11月から来春までは季節的な減産期に入ることから、供給の潤沢さおよび在庫は徐々に解消される見込み。 ○ 関 東 飼 料 用 油 脂 (11 月) : 144円/kg(前年差+30円、前月差±0円) ○ 工 業 用 油 脂 (11 月) : 125円/kg(前年差+30円、前月差±0円) ○ UCオイル(ローリー)飼料用の関東標準価格(11月):153円～156円/kg程度(前年差+30円、前月差±0円)			5.食用加工油脂価格 単位:円/kg 価格改定年月日 牛脂 豚脂 令和5年4月1日 165 175 令和5年7月1日 155 165 令和5年10月1日 145 155 令和6年7月1日 145 145 令和7年2月1日 155 155 令和7年7月1日 165 165 令和7年10月1日 175 175		